

### 11/7/10 科学は信仰をおびやかすか 詩編8編

今日読んで頂いた聖書は、月も星も神が造られたものと主張します。神はそれらをご自分の威光と栄光を現すために天空にお置きになったと言います。

一方科学は、15億年以上も前に宇宙でいわゆるビッグバンと呼ばれる大きな爆発があり、それによって星も月も生まれたと言います。

キリスト教の原理主義者達は、科学は神について語らないからまやかしたと主張します。現代の世俗主義者達は、聖書は非科学的で、信じるに値しないと主張します。

どちらが正しいのでしょうか。

実は科学を否定する原理主義者も、聖書を否定する世俗主義者も、両者とも間違っているのです。

科学は目に見える事実を取り上げ、その特徴を精密に検証します。「見えるもの」に注意を集中するのです。天文学も、生物学も、医学も、地質学も、その対象はあくまでも見える世界です。

聖書は、見えるものにはなく、見えざるものに目を注ぎます。事実ではなく、事実の背後にある目的、意味、神の思いを理解しようとします。つまり、見えざる真実に注意を集中するのです。

繰り返しますが、科学は見える世界を検証します。顕微鏡をのぞいたり、実験したりするのはそのためです。しかし、科学は見えざる世界を検証することはできません。愛を解剖したり、人生の意味や意味を実験室で解明することはできません。

一方聖書の対象は、事実ではなく真実です。ですから、聖書は人生の意味とか、目的とか、神の存在、その愛等を証明するのではなくて、証しし、告白します。しかし聖書は地球と月の間の距離がどの位かとか、脳の構造、目の構造はどうなっているのかとかいうことに関する知識を与えることはできません。

事実の世界と真実の世界は異なる次元の世界です。しかし両方ともなくてはならないものです。つまり、科学と信仰の関係はあれか、これかではなく、あれも、これも関係だと言えるのではないのでしょうか。

数年前、私は病院で心臓の検査を受けました。心臓の血管がつまっていないか、心臓の筋肉の働きは正常かについて専門医の注意深い検査を受けました。

病室のベッドに寝ていると、その病院のチャプレンの一人が私を見舞ってくれました。その胸につけたカードにこうありました。「あなたの魂に平安を」

私の心臓は専門医

のお世話になりました。私の魂はチャプレンのお世話になりました。見える世界を検証する専門医と見えざる世界を証しするチャプレンは、二人とも私にとって大切な存在でした。

科学と信仰は決して矛盾するものではありません。あれかこれがではなく、両方も必要です。なぜなら、科学も信仰も、慈しみ深い神の私たちへの賜物、贈り物だからです。